

※最新版は、

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.13

障害のある子供へのキャリア教育



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる講義配信もあります。詳しくは「[NISE 学びラボ](#)」へ



障害の有無にかかわらず、すべての子供が生涯にわたって自分らしく生きていくために

障害のある子供への「キャリア教育」を充実させるためには、まずは自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現することという「キャリア教育」の理念や目指す方向性を、改めて学校全体で共有することが大切です。そのうえで、すべての子供の自分らしい生き方の実現に向けて、一人一人の困難さや実態に応じた適切な指導や支援を心がけましょう。

- ◆「キャリア教育」は特定の授業や指導方法のことではなく、一人一人の子供が「自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現すること」を目指した一連の教育活動です。
- ◆障害の有無にかかわらず自分らしい生き方が実現できるように、個々の困難さに応じて必要だと思われる支援を検討し、実践しましょう。

「キャリア教育」って？

「キャリア教育」という文言が初めて用いられたのは平成 11 年のことです。学校に「キャリア教育」が登場してから 20 年以上が経っており（発行時点）、それぞれの自治体や学校で様々な実践が積み重ねられてきました。

さて、「キャリア教育」という言葉から、皆さんはどのような教育活動を想像するでしょうか。進学先調べ、面接練習、街中探検、会社見学、職場体験、作業学習、キャリア・パスポート……。どれも「キャリア教育」の実践の一つではありますが、どれも「キャリア教育」そのものを意味している言葉ではありません。「キャリア教育」とは特定の授業や指導方法のことではなく、理念や方向性を意味しています。

「キャリア教育」が目指すもの

「キャリア教育」が目指すところは、一人一人の子供が「自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現すること」です。

人は、たくさんの人と関わりながら、様々な形で社会と関わり、また、いろいろな役割を果たしながら生活を送っています。日々経験するすべての関わりや果たす役割が、一人一人に何らかの影響を与え、その積み重ねがその人の考え方や価値観を形成し、具体的な選択・判断や言動として現れます。そのようにして築かれた「その人らしさ」は、他の誰とも同じでないその人だけの唯一のものであり、年齢や障害の有無に関係なく、絶えず変化・変容していきます。

「キャリア教育」は、一人一人の子供が積み重ねてきた「自分らしさ」が、生涯にわたって「自分らしい生き方」として実現することを目指します。子供が社会の中で自分らしく生きていけるよう、教師を含めたすべての大人が支え、必要なときには手を差し伸べることが、「キャリア教育」では重要な視点となります。

生涯にわたって「自分らしく」生きていくために

一人一人の子供が、生涯にわたって自分の役割を果たしながら「自分らしく」生きていくためには、学校段階でどのような力を身に付けていくことが重要となるのでしょうか。例えば、社会の中で自分の役割を果たすためには、「多様な他者と望ましい人間関係を築き、他者と協力・協働していく力」や「所属する組織での自分の役割を理解し、自分の力を活かして貢献していく力」などが、また自己実現のためには、「自分ができること・意義を感じることを理解し、主体的に行動できる力」などが重要となるでしょう。このような力は職業場面のみならず、社会における様々な場面でも重要となるものです。

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力のことを「基礎的・汎用的能力」といいます（詳細は「さらなる理解のために」参照）。キャリア教育の実践にあたっては、「基礎的・汎用的能力」を育むことを通して、一人一人の子供の将来の自己実現に向け可能性を広げていくことが大切です。

障害のある子供への「キャリア教育」

障害があっても、またどんなに障害が重くても、人は様々な形で他者と関わり、社会の中で役割を担っています。そのため、「キャリア教育」の目指すところは、障害のある子供に対しても同様です。

ただし、障害のある子供に対するキャリア教育は、通常の指導や支援だけでは十分ではない場合があります。例えば、他者との関わりに困難さがあり、集団への参加が難しい場合は、他者との円滑な関わりを促進できるよう支援したり、その子供に応じた集団への参加ができるよう支援したりすることが望まれます。また、過去の経験と自分の将来とを結び付けて考えることが苦手な場合は、その子供の記憶に残りやすい記録方法や思い出しやすいアウトプットの方法を工夫したり、将来の見通しを持ちやすいよう情報提供の仕方を工夫したりすることが望まれます。このように、一人一人の子供の困難さや実態に配慮しながら、必要な支援を適切に提供していくことが大切です。

障害のある子供へのキャリア教育では、職場体験や作業学習などの体験的な学びを通して、進路に関する情報を分かりやすく提供したり、自分の適性に気付けるよう促したりすることも有効です。必要な配慮を行いながら、将来の可能性が広がるような学習の機会を提供したり、ときには悩みや迷いを受け止めたりして、一人一人の子供の「自分らしい生き方」の実現を支えていけるとよいですね。



家庭や学校、地域など、皆で協力して一人一人の子供の「自分らしい生き方」を支え、応援しましょう

☆さらなる理解のために☆

基礎的・汎用的能力とは？

我が国においては、社会的・職業的自立に必要な力に含まれる要素として、基礎的な知識・技能、論理的思考力・創造力、意欲・態度、勤労観・職業観等の価値観、専門的な知識・技能、そして「基礎的・汎用的能力」が挙げられています。「基礎的・汎用的能力」は、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力であり、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つに整理されています。

「基礎的・汎用的能力」を育成する際には、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にあることを念頭に置きましょう。「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を、すべての子供が同じ程度あるいは均一に身に付けることを目指す必要はありません。4つの能力をどの程度、またどのように身に付けさせるのか、学校や地域、また、子供の実態等に応じて、それぞれの学校で検討することが重要です。

<参考情報>

[○中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」\(答申\)](#)



キャリア教育がなぜ大切なのか、キャリア教育が意味するところは何なのか、詳細に解説されています。キャリア教育の理念や方向性を理解する際に、参考になります。

[○文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」](#)



中学校・高等学校におけるキャリア教育について具体的に説明されています。各学校段階におけるキャリア発達や、校内でキャリア教育を推進するための具体的方策が示されています。

[○文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」](#)



小学校におけるキャリア教育について具体的に解説されています。小学校段階におけるキャリア発達や、校内でキャリア教育を推進するための具体的方策が示されています。

[○独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 NISE 学びラボ 「障害のある生徒のキャリア教育」](#)



 独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

★NISEのホームページ
<https://www.nise.go.jp/nc/>



編集 情報・支援部

TEL 046-839-6803 (代表)

初版発行 令和6年2月